



夢の途中

校長 富田 操

大人にとって「学校」というところは、思い出の場所です。

もしかしたら思い出の中の学校は、甘く、楽しい「夢の国」かもしれません。

しかし、子どもたちにとっての学校は、現実の生活の場所です。もちろん楽しいこともたくさんあります。ですが、それと同時に苦しく、つらいこともたくさんあるはずです。学校というところは、あらかじめ用意された「夢の国」ではありません。

そこに集まった全員で力を合わせて「夢の国」を作り上げていく、そんな場所だと思うのです。

テレビなどで「学校とは、苦しいこと、つらいことが全くないところであるべきだ」と簡単に答えているコメント等が流されているのを目にすることもあります。

ですが、私たち大人は、全員、経験してきているはずです。同じ歳の子どもたちが一所に集められて、生活することの難しさを。そこで起きる様々な人間関係を。

私自身も、子どもの頃、やはり、学校の大変さを思い知らされたことのある一人です。

そのことを知っている大人たちが、子どもたちに何を伝えることができるのだろうかといつも考えます。

学校というところは、確かに大変なところがある場所かもしれない。しかし、その大変さに、なんとかみんなで勇気をもって立ち向かい、自分たちの力でなんとか良くしていこうとするところであり、そしてその過程にこそ価値があり、その過程を経てこそ成長があるのだ、ということを伝えなければならないのではないかと思います。

その過程を通して、子どもたちは人と人のつながりを学び、力を合わせることを学び、人を信じることを学び、そして新しい困難に立ち向かっていくことを学ぶのです。

学校というところは、本来、ゴールではなく、プロセスであるはずです。みんながそこを乗り越え、みんなで力をつけていく途中であり、みんなで成長していく途中であり、新しいことに気づいていく途中であるはずです。

私たち大人は、結果を気にしすぎず、学びや成長の途中である子どもたちを信じて、子どもたちの成長の過程を温かく見守ることが大切なのだと思います。子どもたちの成長を待つ覚悟をもつことや待つ責任が大人にはあります。そして、子どもが上手いかなかったときには、それを引き受ける覚悟も持たなければならないと思います。学校は、そういう場所でありたい、そう思います。

秋が深まってまいりました、これから、子どもたちの学びが深まる季節です。成長の途中である子どもたち一人ひとりをよく見つめ、見守ってまいります。

地域・保護者の皆様にも、一緒に子どもの成長を見守っていただければ幸いです。